
ポケットモンスターHG・SS

林 晃佑

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポケットモンスターHG・SS

【Nコード】

N3091I

【作者名】

林 晃佑

【あらすじ】

見りゃ分かるので・・・^^;;

ただいま

コケコッコー

ゴールド「うう・・・？もう朝か・・・」

母「ゴールド？昨日の夜に言っというた、荷物、棚に整理した？」

ゴールド「うん、できてるぜ」

母「じゃあ、久しぶりにウツギ博士にあいさつしてきなさい」

・・・俺の名はゴールド、昨日シンオウ地方の田舎、ノモセシティから

おなじく田舎のジョウト地方のワカバタウンに引っ越してきた

そもそも俺は3年前までここに住んでいた

そう、3年前のカントー大事件の時だ

ジョウトもロケット団の悪事にハマられている・・・という勝手な噂が流れ

俺と母さんはシンオウへ行った

ああ、あと父さんはポケモントレーナーとして、いろんなところへ旅をしている

ということ・・・

ゴールド「久しぶりだな・・・ウツギ研究所」

そこにはナナカマド博士のいる研究所と雲泥の差といってもいいほど小さい研究所だ

ゴールド「ちゃーっす！久しぶりっす！ウツギ博士ー！」

ウツギ「・・・！ゴールドくんか！久しぶり！旅行？」

ゴールド「旅行じゃないっすよ！昨日からここで住んでるんっすよ！」

ウツギ「へー！あっ、3年前に君にたくした、あのヒノアラシ、元気に成長した？」

ゴールド「レベルはそんな上がってませんが、それなりにたくましくなりましたよ！見ます？」

ウツギ「見る見る！」

ゴールドがモンスターボールからヒノアラシを出した

ゴールド「どうっすか？体は大きくなったでしょ？」

ウツギ「そうだねえ、おっと久しぶりだね！ヒノアラシ」

ヒノアラシ「ヒノッ！」

そうするとウツギ博士の腕をヒノアラシは噛みついた

ウツギ「痛てっ！」

ゴールド「こ・・・こらっ！ヒノアラシ！」

ウツギ「大丈夫！あと、引越しの記念に、そこに並べてある2つのポケモンから一つ持ってってよ」

そこにはチコリータとワニノコのボールが置いてあった

ゴールド「じゃあ、俺は・・・」

謎の少年

ゴールド「俺は・・・このチコリータにする」

ウツギ「その子は・・・」

心配そうな目でゴールドを見つめる

ゴールド「なんすか？」

ウツギ「・・・本当にその子でいいのかい？」

ゴールド「俺の性格分かりますよね？一度決めたらもう戻らないって・・・」

そうするとチコリータのモンスターボールのボタンを押すと・・・

チコリータ「チッコっ！」

ゴールド「よし！このモンスターボールに入って・・・」

そうするとゴールドの体に体当たりした

ドガッ

ゴールド「うわっ」

そのままゆかに倒れた

ゴールド「てめえ」

チコリータ「チコッ！」

そうするとチコリータは研究所の外へ逃げて行った

ウツギ「あっ・・・」

ゴールド「あっ！待て！オオスバメ行くぞ！」

そうするとゴールドはオオスバメを出して一緒に追ってた・・・

・・・

ゴールド「あそこだ！ノズパス！岩石封じで足場を止めろ！」

そうするとモンスターボールからノズパスが出てきて岩石封じでチコリータの前をふさいだ

チコリータ「チィ・・・」

ゴールド「覚悟しろ！オオスバメ！つばめがえし！」

オオスバメ「スバーッ！」

チコリータに攻撃した時、横から・・・

？「ニューラ！冷凍ビーム！」

赤い髪の少年のニューラが冷凍ビームでオオスバメにクリーンヒット

トさせた

ゴールド「てめえ！なにすんだ！」

？「俺のポケモンのトレーニングだよ、だが、弱いトレーナーを選んでしまったようだな」

ゴールド「くそお！舐めんな！ノズパス！いわおとしだ！」

？「みきり、そしてそこから悪の波動！」

いわを簡単によけ、黒い波動がノズパスを襲う

ノズパス「ノーオ・・・」

ゴールド「ノズパス！」

？「さっき盗んだワニノコでも使うか・・・」

ゴールド（ワニノコ？）

？「ワニノコ！水鉄砲！」

ワニノコ「ワーニフシャアアアアアアア」

ノズパスにあたり効果抜群！ノズパスは倒れた

ノズパス「ノーズパッ・・・」

ゴールド「ノズパス！！」

？「弱いな、特訓にもならない・・・戻れ、ワニノコ」

ゴールド「・・・そのワニノコは！」

？「そうさ、このワニノコはウツギ研究所で盗んだワニノコさ」

ゴールド「てめえ！」

シルバー「ついでに・・・俺の名はシルバー、世界最強になるトレーナーさ・・・」

そうすると、落ちていたヒノアラシのボールをとった

ゴールド「あっ！返せ！」

シルバー「このポケモンは可哀想だな・・・弱いトレーナーに持たされて・・・」

ゴールド「だからどうした？」

シルバー「だからこのポケモンは俺みたいな強いトレーナーを求めているはずだ・・・」

ゴールド「な・・・なに？」

そうするとヒノアラシのボールを持ち、シルバーは消えていった

ゴールド「俺の・・・ヒノアラシを返せええええええええええええええええ！」

そうすると、チコリータが寄ってきた・・・

チコリータ「チコッ・・・」

ゴールド「・・・お前も、協力してくれるか？」

チコリータ「チコッ!!」

チコリータは首を大きく前に振った

ゴールド「よし!行くぞ!」

謎の少年（後書き）

ゴールドの手持ち

オオスバメLV27

ノズパスLV21

チコリータLV5

チコの底力

ゴールド「ふう・・・ここがヨシノシティか」

ゴールドはシンオウの時の友達、パールと同じでせっかちで母にも言わずに旅に出かけたのだ

ゴールド「ポケモンジム・・・？ヨシノにあったっけか？まず入ろう・・・」

怪しい小さなところに入ると・・・

シンヤ「ようこそ！ポケモンリーグ未公認のジムへ・・・」

ゴールド（思いっきり言ってるよ）

シンヤ「でもここは、見未公認だけど、思いっきりバトルが出来るトレーニング場だよ」

ゴールド「へえ」

シンヤ「ここでエリートトレーナーに5連勝すれば、ジムリーダーの僕と対決できるんだ」

ゴールド「なるほど・・・」

シンヤ「じゃあ、その部屋から入って行ってね」

ゴールド「おっす！」

その後のゴールドは・・・

ゴールド「ノズパス！いわなだれ！」

ゴールド「チコリータ！はっばカッター！」

ゴールド「オオスバメ！！電光石火！」

・・・

ゴールド「意外に早く最後の部屋にこれたな・・・」

シンヤ「ほう・・・ここまでこれるとはなかなかのトレーナーだね
！」

ゴールド「これでもノモセでマキシさんにつぐトレーナーだったんだ」

シンヤ「ルールは交代無しの一対一、分かったね？行け！ピジョット！」

ゴールド「ピジョットか・・・あえてチコリータ！」

チコリータ「チコッ！」

シンヤ「いいのかい？手加減無しで行くよ？ゴットバード！」

そうするととても早いピジョットがチコリータに襲いかかった

チコリータ「チコォっ！」

シンヤ「レベルが低いチコリータがLV40のピジョットに最強ワザに耐えられるわけが・・・なに？」

チコリータはフラフラしながらも立ち上がった

チコリータ「チッコ・・・」

ゴールド「チコリータ！！がむしやらだ！！！！！」

チコリータ「チッコッ！！！」

ドガッ！！思いつきの体当たりが決まった

ピジョット「ピジョォッ・・・」

シンヤ「なにに？」

チコリータ「チィ・・・」

ゴールド「いええ！たいあたり！！！」

チコリータ「チコォォォォォッ！！！！！」

ピジョット「ピジョォォォォォッ」

シンヤ「なにいいい！」

ゴールド「勝った・・・」

チコリータ「チコッ！」

シンヤ「負けた・・・？」

ゴールド「てな訳でじゃーな！」

チコリータの力を知りました

チョコの底力（後書き）

ゴールドの手持ち

ノズパスLV25

オオスバメLV29

チコリータLV10

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3091i/>

ポケットモンスターHG・SS

2010年10月14日11時58分発行